

2018年3月12日（月）  
コンテンツ教育学会 2018年度 春季研究大会 研究発表  
城西国際大学紀尾井町キャンパス3号棟 国際会議場

# 英国QAAによるアート&デザイン分野の参照基準について

## —わが国大学の分野別質保証・向上への示唆—

---

デジタルハリウッド大学 [DHU] 学務グループ 山口 豪  
yamaguchigo@dhw.co.jp

# 発表内容

- I. アート&デザイン分野の質保証を推進する必要性
- II. 英国の分野別参照基準の概要
- III. 英国の分野別参照基準の特徴
- IV. 「QAA 分野別参照基準 アート&デザイン 2017年2月」(邦文仮訳)の概要
- V. 日英の学士課程教育の構造上の違い
- VI. わが国大学の分野別質保証・向上への示唆

# I. アート&デザイン分野の質保証を推進する必要性

# アート&デザイン分野の質保証を推進する必要性

## ① 第三者による専門分野別評価実施意義の高まり

■ 中央教育審議会答申で上記評価の実施意義が強調

- 2002年  
「大学の質の保証に係る新たなシステムの構築について（答申）」
- 2005年  
「我が国の高等教育の将来像（答申）」
- 2016年  
「個人の能力と可能性を開花させ、全員参加による課題解決社会を実現するための教育の多様化と質保証の在り方について（答申）」



## ② わが国における専門分野別評価の進展

■ 工学，薬学，歯学，医学，看護学，獣医学などの専門分野

## ③ 日本学術会議による分野別参照基準の作成

■ 数多くの学問分野（※）で大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準がQAAによる分野別参照基準などを参考にして策定・公表

※日本学術会議の以下のウェブサイトには、2017年4月時点で、すでに、経営学から物理学・天文学分野に至るまで、25の学問分野の参照基準が策定・公表されている。

<http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/daigakuhosyo/daigakuhosyo.html>

（参照日2017/4/23）



芸術学およびデザイン学の分野別質保証に関するわが国の取組みは、日本学術会議が対象としていない学問分野であることなどから、他の学問分野と比較して遅れているといっても過言ではない。

このような状況に鑑み、今後わが国で、芸術学およびデザイン学の分野別質保証の取組みを推し進めていく必要があると考える

## Ⅱ. 英国の分野別参照基準の概要

# 英国の分野別参照基準の概要

## ▼英国 QAA 分野別参照基準 アート&デザイン 2017年2月の邦文仮訳を行う理由

- ・わが国の芸術学およびデザイン学分野の学部・学科等を設置している又はこれから同学部・学科等を設置する高等教育機関の分野別質保証に資するべく、アート&デザイン分野の質保証の枠組み作りが進んでいる英国の分野別参照基準を邦文に仮訳し紹介。
- ・今後わが国で上記の分野別質保証のあり方を検討する際に、この基準が一つの極めて重要かつ有益な先進事例になると考える。

## ▼定義

- 専門分野の範囲の中で、学位の基準に対する期待を設定
- 学位取得者に期待されるものを専門分野における理解力や問題解決能力を発展させるのに必要とされる能力やスキルとして定義

## ▼種類（以下4分類）

- 学士（優等学位）課程レベル（61分野）
- 修士課程レベル（16分野）
- ヘルスケア専門職（18分野）
- スコットランドにおける専門職資格（6分野）

## ▼具体的役割

- プログラムの設計、実施、レビューを行う人々に役立ててもらう
- 大学で学ぶ人々、卒業生を雇用する人々へに役立ててもらう

## ▼英国の機関評価における活用方法

- 学科レベルで同基準をどの程度参考に行っているかを評価
- 参考に行っていない場合は、その理由を問う形になっている

事実上の規制力をもった**規範（ソフトロー）**として機能

## ▼具体的内容

### ■英国における分野別参照基準の様式（学士（優等学位）課程レベル）

- 導入部（Introduction）
- 原則の定義（Defining principles）
- 分野の性質と範囲（Nature and extent of the subject）
- 分野の知識、理解、スキル（Subject knowledge, understanding and skills）
- 汎用的なスキル（Generic skills）
- 分野特有のスキル（Subject-specific skills）
- 教授、学習、アセスメント（Teaching, learning, and assessment）
- 参照基準（Benchmark standard）
  - ・ 閾値基準（Threshold standard またはThreshold level など）
  - ・ 典型基準（Typical standard またはTypical level など）
  - ・ 卓越基準（Excellent standard またはExcellent level など）

## ▼作成と見直し方法

- QAAは高等教育セクターと緊密に連携し、様々な分野別参照基準を公表
- 公表後5年以内に同基準を見直し
- 見直しを行った基準を7年以内に再度見直し

↓  
学問分野は常に変化

↓  
分野別参照基準の妥当性、独自性、信頼性を担保するために、恒常的かつ継続的に同基準を見直す作業は不可欠である

## Ⅲ. 英国の分野別参照基準の特徴

# 英国の分野別参照基準の特徴

## ① 水準判別的なベンチマーク基準の設定

- 各専門分野の**閾値・典型・卓越基準**というベンチマーク基準



→ 英国では、学士課程において、「成績優秀者かどうか」、「どの等級で学位を得たか」などが重視され、優等学位には、成績によって、First Class、Upper Second、Lower Second、Third Classの4段階のレベル分けがなされている

## ② ソフト・ローとしての機能

- QAAによる機関評価
  - 各大学は分野別参照基準に従う義務はない
  - それに従うかどうかは信頼の上に成立
  - 法的拘束力はないものの**ソフト・ロー**として機能



英国の各大学でその構成員が主体的に分野別質保証に携わる「**質の文化 (Quality Culture)**」が醸成されている証左

## ③ 各大学の柔軟性・革新性を許容した手法を採用

- 各大学がプログラム設計を行う自主性・自律性を最大限に尊重
- 各専門分野の国家的なカリキュラムを示す規制的な手法ではない
- プログラム設計における**柔軟性や革新性を許容したゆるやかな手法**



各大学の学位の分野別質保証を促進することを意図したもの



各大学の分野別質保証を担う第一義的責任は大学自身にある意識  
その質保証は大学人の手で自ら行う意識が強い英国の伝統を反映

以上3点の特徴を持つことから、  
英国の取組みは、わが国の高等教育における分野別質保証を今後進めていく上で、一つの重要かつ有益な先進事例になると考える。



## IV. 「Q A A 分野別参照基準 アート&デザイン 2017年2月」(邦文仮訳)の概要

# 「QAA 分野別参照基準 アート&デザイン 2017年2月」(邦文仮訳)の概要

## ▼英国 QAA 分野別参照基準 アート&デザインとは

- この分野の卒業生に期待されることを、その卒業生が学習終了時に、何を知り、何ができ、何を理解したのか、という観点から定義したもの。
- この分野別参照基準は、アート&デザインの学士号について言及する。

### ◆目次

- この文書をどのように使用できるか？
- 分野別参照基準について
- この分野別参照基準について
- 1 導入部
- 2 原則の定義
- 3 アート&デザインの性質と範囲
- 4 知識, 理解, スキル
- 5 教授, 学習, アセスメント
- 6 参照基準
- 付録1: プログラムタイトルのリスト
- 付録2: アート&デザインの分野別参照基準のベンチマーキングおよびレビューグループのメンバー

### ◆対象読者

- アート&デザイン分野のプログラムの設計、実施、レビューに関与する人々
- アート&デザインを将来学ぶことを考えている人々、現在学んでいる学生
- 雇用者(アート&デザイン分野の卒業生の知識・スキルを知るために)

### ◆対象となる教育プログラム (JACSによる以下のコードに基づき分類)

W100 (美術) W110 (製図) W120 (絵画) W130 (彫刻)  
W140 (製版) W150 (書道) W160 (美術保護)  
W190 (他に分類されない美術)  
W200 (デザイン研究) W210 (グラフィックデザイン)  
W211 (タイポグラフィ) W220 (イラストレーション)  
W230 (衣類/ファッションデザイン)  
W231 (織物デザイン) W240 (産業/製品デザイン)  
W250 (インテリアデザイン) W260 (家具デザイン)  
W270 (陶芸デザイン) W280 (インタラクティブ&エレクトロニックデザイン)  
W290 (他に分類されないデザイン研究)  
W600 (映画制作技術および写真) W640 (写真) W700 (工芸)

### ◆アート&デザインの学習で養成する能力

- 創造的な能力 ●美的感性 ●知識の探求 ●チーム作業のスキル
- 多様性の理解 ●品質と細部の理解
- さまざまな方法で研究を実行する能力
- 自らの学習と開発を批判的に内省する資質
- 創造的実践に倫理的配慮を組み入れる能力
- 独立して働き、反発力と自己決定を促す能力
- さまざまな形式でコミュニケーションを行う能力

# 「QAA 分野別参照基準 アート&デザイン 2017年2月」(邦文仮訳)の概要

この分野別参照基準には、アート&デザインの優等学位を取得した学生が必要とする達成度の①閾値(最小)レベルと②典型的なレベルを記述するだけでなく、③卓越した達成基準の簡潔な説明も含まれている。

## ①優等学位に対する閾値基準(最低限必要とする基準)

### ▼専門分野特有の知識、理解、特性、スキル(抜粋(例))

6.4 卒業生は、以下を行うことができる：

- i 独立して、かつ自主的活動として、設定された状況内容に応じて、アイデアを創出する能力を示す証拠を提示することができる。

6.5 卒業生の作品は、専門分野における専門的実践の側面によって特徴付けられる。これは、以下のいくつかの知識と理解によって証明される。

- i 学生の専門分野の広範な批判的および文脈的な次元。

### ▼汎用的な卒業生のスキル(抜粋(例))

#### ■自己管理：

- i 仕事量の管理と期限遵守における自己管理スキルの発揮。

#### ■批判的関与

#### ■グループ/チームの作業と社会的スキル

#### ■コミュニケーションとプレゼンテーションのスキル

#### ■研究と情報スキル：

- i さまざまなソースからの情報の発見、検索、および管理。

## ②優等学位の典型基準(典型的なレベルの基準)

### ▼専門分野特有の知識、理解、特性、スキル(抜粋(例))

6.8 典型的な達成度として、卒業生は作品の中で次のことを実証できる：

- i アイデア、コンセプト、提案、解決策、議論を、自主的活動として、設定された状況内容に応じて、独立的/協働的に生成することができる。

6.9 卒業生の理解には、彼らの専門分野における研究、実践、理論によって特徴付けられ、以下のような内容を含む：

- i 学生の専門分野ならびに一般的なアート&デザイン分野における批判的、文脈的、歴史的、概念的、経済的、社会環境的および倫理的な次元。

### ▼汎用的な卒業生のスキル(抜粋(例))

#### ■自己管理：

- i 独立して学習し、目標を設定し、仕事量を管理し、期限を遵守できる。

#### ■批判的関与

#### ■グループ/チームの作業と社会的スキル

#### ■コミュニケーションとプレゼンテーションのスキル

#### ■研究と情報スキル：

- i さまざまなソースからの情報を発見し、選択し、検索し、評価し、操作し、管理することができる。

#### ■個人的な資質

## ③優等学位の卓越基準

(卓越した達成基準)

- ・卓越基準に到達したアート&デザイン分野の卒業生は、セクション6に挙げた能力とスキルをより高いレベルで実証する。
- ・その卒業生は、広範かつ独立的な実践、創造性、革新性、および深い理解に関する証拠を示す。
- ・卓越した作品は、独特かつ想像力豊かな方法で、科目とその応用に関する包括的な知識を表す。

## V. 日英の学士課程教育の構造上の違い

# 英国の枠組みをわが国に導入する際に考慮すべき諸問題

## ① 日英の学士課程教育内容の違い

- 英国：専ら専門教育を行う教育課程
- 日本：専門教育と**教養教育**とが柔軟に複合した教育課程



- 専門教育のみならず**教養教育**にも配慮した基準の設定が必要
- 英国よりもこうした多様性を許容した基準の枠組みが必要

## ② 日英の大学の設置形態の違い

- 英国：ほぼ一律に公的な性格を有す
- 日本：国公私立の多様な設置形態別大学が存在  
特に建学の精神を持つ多数の私立大学が存在



- 画一的な分野別質保証の枠組みを導入することは不適切

## ③ 日英の学位の違い

- 英国：学位に等級が存在  
「普通学位」(ordinaryまたはpass degrees)と  
「優等学位」(honors degrees)の2種類  
→ 各専門分野の①閾値・②典型・③卓越基準を設定
- 日本：学位は単一



- 英国のような3つのベンチマーク基準を設定する必要はない

以上のような違いがあることから、英国の先進事例にわが国が学ぶべき点は多々あるものの、英国の枠組みをそのまま直接わが国に取り入れることは難しいということを確認しておく必要がある。

こうした点に留意して、今後は、芸術学およびデザイン学の分野別参照基準をわが国においても策定していく必要があると考える。

## V. わが国大学の分野別質保証・向上への示唆

# 芸術学・デザイン学の分野別質保証を推進していく上での課題

## ① 専門教育のみならず教養教育にも配慮した基準の設定が必要

- 参考になると考えられる評価基準  
全米アート&デザイン分野の専門分野別アクレディテーション団体  
National Association of Schools of Art and Design (NASAD)  
の評価基準  
→ NASADは、専門的側面のほかに、  
**教養的側面**も考慮に入れた評価基準を示しているところに特色を持つ

## ② 各大学で実際にはどのように分野別参照基準が活用され得るか

- 英国：ソフトローとして分野別参照基準が機能  
機関評価の際にも同基準を活用
- 日本：分野別参照基準の各大学での活用は任意  
機関別認証評価でも同基準は**特に活用されていない**



→ 日本の大学で同基準が活用されるための**手立て**が必要

例) 分野別参照基準を策定する団体と日本の認証評価機関とが連携



分野別参照基準と機関別認証評価の関係性を明確



同基準活用のための**指針**や**共同声明**を提示して発信 等

## ③ 専門分野別評価を担う人材や財政基盤の確立が不可欠

- 専門分野別評価の活発化が今後わが国でますます重要



数多くの専門分野



既存の認証評価機関がすべての専門分野別評価を担うのは困難  
その活動を支える**人材の確保**や**財政基盤の確立が不可欠**なため

## ④ コンテンツ教育学会への示唆

- 芸術学及びデザイン学の分野について



この分野の質保証の必要性を認めた**コンテンツ教育学会**が中心



今後新たにこの分野の評価基準・体制・プロセス等を検討・策定



将来的に、専門分野別評価を本学会が担当することも想定

上記の検討・策定作業を今後コンテンツ教育学会が担っていく上で、  
今回翻訳を行ったQAAのアート&デザイン分野の参照基準が活用で  
きるのではないかと考える。

**ご清聴ありがとうございました**